



良質な水稲苗を農家へ
ひとめぼれをは種

播種作業を行う作業員たち

今年産米の種まきが各育苗センターで行われました。平泉水稲育苗センターでは4月19日までに、農家組合員の注文に応じ、1日3600箱、19日までに計1万5500箱仕込みました。5月の連休から苗の供給が始まり、20日頃までには全て終える見込み。苗づくりは稲の出来が決まるほど重要と言われることから、良質な苗を届けるため徹底した育苗管理に努めます。



新規栽培者をサポート
JAピーマン部会

定植方法を実演する菅原職員⑤

JAピーマン部会は4月11日、新規栽培者を対象とした定植実演会を合併後初めて開きました。新規栽培者11人が参加し、圃場準備や定植作業を学びました。園芸課の菅原真一職員は、定植の10～14日前には圃場を準備し地温を確保することなどを説明。菅原則男さんは、「栽培マニュアルだけでは分からないこともある。体験できるのはありがたい」と話しました。

NEWS

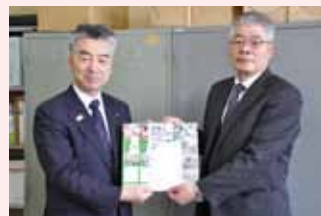
明日への活力を

JAカラオケ教室が4月10日開講しました。全16回の講座を、16人が受講します。



食農教育に役立てて

JAは4月2日、小学校向け食農教育補助教材を、一関市と平泉町の教育長に贈呈しました。



防除のタイミングなどを確認

JAりんご部会は4月8、9の両日、りんご防除開始指導会を13会場で行い、凍霜害対策と病虫害防除などについて確認しました。



全11回の講座で野菜作り学ぶ

JA女性部川崎中央支部は4月24日、2回目の畑の講習会を開きました。地元の上沼清一さんうねませいいちを講師に、ジャガイモやネギなど6品目の栽培方法を学びます。





ていねいに種もみをまく児童



情報を交換する参加者

きれいにまけるかな？

金沢小学校で種まき

金沢小学校（花泉）5年生児童25人は4月19日、校内で水稲の種まき体験を行いました。児童は6班に分かれ、重さを量った種もみをむらがないように慎重にまきました。指導にあたった佐々木弘さん（花泉）は「お米の成長過程を学んでほしい。種まきの貴重さも考えてもらえれば」と話しました。佐々木さんが育苗管理し、児童らは5月中旬に田植えを行います。

話しやすい環境で円滑な情報交換

JAトマト部会

JAトマト部会は4月17日、座談会を中里と藤沢、千厩、平泉の4会場で開き、強い樹をつくるために重要な初期管理などについて確認し、情報を交換しました。座談会は繁忙期を除き9月まで毎月開催します。中里の吉田幸博さんの圃場には、9人が参加。佐藤伸明さんは「定植後の温度管理を再確認できた。いろいろな生産者の圃場で開催してほしい」と話しました。

TOPICS

好調を維持し7月まで出荷を

JAいちご生産部会は4月23日の中間実績検討会で、数量、単価、金額ともに前年を上回っていると報告しました。出荷規格を遵守しながら、7月までの出荷を目指します。



出荷規格の遵守を

JAきゅうり部会は4月23日、促成きゅうり出荷規格指導会と栽培指導会を丸毛盛岡中央青果(株)で開きました。市場での荷受状況等を視察し、出荷最盛期に向け出荷規格を確認しました。



定植後の水分と 温度管理しっかりと

JAピーマン部会は4月22、24の両日、栽培管理指導会を8会場で開き、定植後の栽培管理について確認しました。



良質米生産に向け始動

大東稲作部会は3月28日、新規体系農薬使用研修会を開き、田植えシーズンに向けて、新規体系農薬の使用法や効果などを学びました。





「入学祝」お守りを贈呈する部員

亀の歩みで交通安全

JA女性部花泉中央支部

JA女性部花泉中央支部は3月26日、一関市役所花泉支所を訪問し花泉町内の新入学児童に亀のお守りを贈呈しました。熊谷睦月さん(花泉)が古代米などの稲を亀の形に編み込んだ色鮮やかなお守りを作り、女性部員がラッピングしました。佐藤セイ子支部長は「ゆっくり歩く亀のように周囲を確認し、事故の無い学校生活を送ってほしい」と思いを寄せました。



集出荷場にキュウリを搬入する佐藤さん

キュウリの出荷がスタート 長期安定出荷へ

JA管内産で促成栽培されたキュウリの出荷が4月5日から始まりました。出荷ピークの5月下旬から6月上旬には1日約700箱を見込みます。管内では、促成、夏秋ハウス、夏秋露地、抑制の4つの作型で栽培しているため、11月まで出荷が可能です。佐藤正己さん(花泉)は「土壌消毒や土壌酸性度調整、台木の変更などを行った。売上向上につながれば」と期待を込めました。

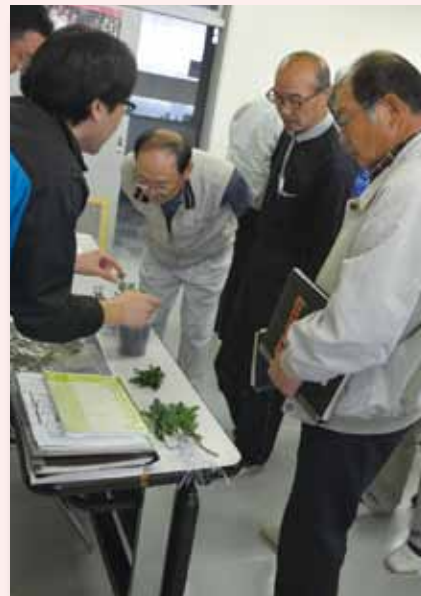


利用者の相談に応じる関係機関と団体

新規就農者の相談窓口を開設

新規就農ワンストップ相談窓口

一関地方農林業振興協議会の新規就農ワンストップ相談窓口が4月10日開設し、会場となったJA営農振興センターに3組が相談に訪れました。利用者は、栽培を希望する品目や農地、契約手続き、補助金の要件などを話し合いました。相談窓口は関係機関や団体が情報を共有でき速やかな就農につなげることができるほか、利用者の労力軽減も期待されます。



菌核病にかかった親株を観察する参加者たち

小菊の栽培管理を学ぶ JA花き部会小菊専門部

JA花き部会小菊専門部は4月19、24の両日、栽培指導会を管内6会場で開催しました。一関農業改良普及センターの鈴木翔農業普及員が定植や整枝作業などの注意事項や病害虫防除について説明。菌核病にかかった親株を実際見せ、育苗ハウス内の確認を促しました。また、健全な苗の確保に向け、育苗中はこまめな温度管理を行うことを呼び掛けました。



情報を共有する部会員

作型別の栽培方法を学ぶ

情報を共有し互いの栽培に生かす

JAきゅうり部会は4月8日、促成きゅうり圃場視察研修を行いました。JA管内は4つの作型でキュウリ栽培を行っており、部会員間の交流と他の作型から栽培方法を学ぼうと研修を企画。東部地区で雨よけ・露地栽培を行う生産者が、西部地区の促成栽培のハウスを見学しました。部会員からは、「成長が進んだ頃に再度見学したい」「今度は露地栽培の視察をしたい」などの声が聞かれました。



シーズンの安全を祈願(室根高原牧野で)

畜産振興と安全を祈願

室根・須川で開牧

室根高原牧野で4月23日、須川牧場で25日、開牧式と安全祈願祭が行われました。一関市や平泉町、JAなど40人が参加し、シーズン中の安全を祈願しました。今年度の預託頭数は昨年度並みの350頭になる見込みで、JAでは草地への放牧による牛の健康増進と農家の省力化を支援していきます。佐藤鉦一組合長は「事故なく放牧管理をしっかりと行なっていきたい」とあいさつしました。



商品説明を受ける 右奥から佐藤組合長、阿部幸文常務、「金色の風」栽培研究会の小野正一会長

金色の風の米粉クッキーが完成

松栄堂とJR東日本が共同開発

菓子の製造販売を行う松栄堂(一関)が4月12日、「粉雪ビスキュ」の完成報告に訪れました。県産ブランド米「金色の風」を使用し、粉雪のような口どけと新食感が味わえる米粉クッキー。JR構内の店舗や松栄堂直営店で販売されています。JAの佐藤鉦一組合長は「金色の風の全国ブランド化には、米としてだけでなくさまざまな形のPRが必要」と感謝しました。



開花時期の栽培管理を確認する生産者

確実な受粉の徹底を

JAりんご部会

JAりんご部会は4月22、23の両日、定例指導会を13会場で開きました。開花時期の管理が品質に大きな影響を及ぼすとされ、開花を前に受粉能力や花粉の取り扱い、摘花と摘果の方法などを確認。一関農業改良普及センターの河田道子主査農業普及員は、「受粉を十分に行い果実内の種子数を多くすることで果実肥大が促され、変形果対策にもなる」と話し、確実な受粉を呼び掛けました。